



今人五石題

5  
4122  
4



門 利 5  
號 4122  
卷 4-4

五 世 恩	廿 三	子 庚 梅	廿 三	子 恩 海	廿 四	子 恩 海	廿 四
五 世 恩	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三
五 世 恩	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三
五 世 恩	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三
五 世 恩	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三
五 世 恩	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三
五 世 恩	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三
五 世 恩	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三
五 世 恩	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三
五 世 恩	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三	子 恩 海	廿 三

五世恩海

冬人百題冬之節目錄

節の始

初雪	一	雪	一	雪見	四	吹雪	四
雪停	四	初時	五	時	五	賣	七
霰	七	霜	八	夕の雨	九	雪の節	九
氷柱	九						
時節の終							
初雪月	十	小雪月	十	小雪	十一	霜月	十一
初雪	十一	初冬	十一	冬	十一	初送	十三
初雪	十二	夷梅	十二	子梅	十二	初冬	十四
初雪	十三	中夜	十三	今時	十三	冬	十五

冬目

冬	廿五	初雪	廿五	冬	廿五	冬	廿五
冬	廿六	初雪	廿六	冬	廿六	冬	廿六
冬	廿七	初雪	廿七	冬	廿七	冬	廿七
冬	廿八	初雪	廿八	冬	廿八	冬	廿八
冬	廿九	初雪	廿九	冬	廿九	冬	廿九
冬	三十	初雪	三十	冬	三十	冬	三十
冬	三十一	初雪	三十一	冬	三十一	冬	三十一
冬	三十二	初雪	三十二	冬	三十二	冬	三十二
冬	三十三	初雪	三十三	冬	三十三	冬	三十三
冬	三十四	初雪	三十四	冬	三十四	冬	三十四
冬	三十五	初雪	三十五	冬	三十五	冬	三十五
冬	三十六	初雪	三十六	冬	三十六	冬	三十六
冬	三十七	初雪	三十七	冬	三十七	冬	三十七
冬	三十八	初雪	三十八	冬	三十八	冬	三十八
冬	三十九	初雪	三十九	冬	三十九	冬	三十九
冬	四十	初雪	四十	冬	四十	冬	四十
冬	四十一	初雪	四十一	冬	四十一	冬	四十一
冬	四十二	初雪	四十二	冬	四十二	冬	四十二
冬	四十三	初雪	四十三	冬	四十三	冬	四十三
冬	四十四	初雪	四十四	冬	四十四	冬	四十四
冬	四十五	初雪	四十五	冬	四十五	冬	四十五
冬	四十六	初雪	四十六	冬	四十六	冬	四十六
冬	四十七	初雪	四十七	冬	四十七	冬	四十七
冬	四十八	初雪	四十八	冬	四十八	冬	四十八
冬	四十九	初雪	四十九	冬	四十九	冬	四十九
冬	五十	初雪	五十	冬	五十	冬	五十



年暮

五十五

年内之春

五十五

冬朗詠

五十五

新交

超多百五十九影

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 年暮, 年内, 春, 冬, etc.]*



初 雪

冬人五百題發句集

冬之部

梅之本輯

初雪や石のささるる上階り  
 たる雪や物干年の一ふき  
 たる雪やさしり竹の上じり  
 初雪や名のさき山も持れけ  
 たる雪やおぼろのあまの初らふ  
 初雪やささるる川ぬき 岸依  
 たる雪や梅のいと一針さ  
 初雪やささるる 柳の柳

一具 山 山 梅 梅 冬 冬 初 初 雪 雪

初雪のちりちり梅のこぼれ

乃山

雪ららや梅そりりる木の葉

新左

葉の細の雪さくらりて葉の葉ぬ

深意

おりちりちりや梅のこぼれ

梅程

雪半やうらやうら梅の雪

内風

雪止んて雪やちりちり梅の雪

の蕭

雪のちりちり雪のちりちり

布水

大雪葉うらやうら雪の山

強久

雪はちりちり梅のこぼれ

そのめ

雪のちりちり梅のこぼれ

和堂

ちりちり梅のこぼれ

好輝

雪

雪ららや梅そりりる木の葉

之史

雪ららや梅そりりる木の葉

号雪

雪ららや梅そりりる木の葉

子布

雪ららや梅そりりる木の葉

梅子

雪ららや梅そりりる木の葉

巴洞

雪ららや梅そりりる木の葉

斎在

雪ららや梅そりりる木の葉

文焔

雪ららや梅そりりる木の葉

宗古

雪ららや梅そりりる木の葉

杜雪

雪ららや梅そりりる木の葉

左山

雪ららや梅そりりる木の葉

雪貴

雪ららや梅そりりる木の葉

丸々

おりのよふなもつきりり雪の山  
雪積やあふま枝よなく積  
雪捨えついで起りあか紫  
移り先よ報かて雪乃乳  
いしりりもま向りりり雪の山  
積の雪ときりりあかた々々  
雪おねや人もあか言あも出  
ゆあきの屋きりりり雪の乳  
大るや雪の小隆の乳りりり  
りけりりり海雪の新や雪の嘉  
細や本や雪の積りりりりり  
ふ雪のむりりりりりりりり

雪光  
從身  
卓堂  
松橋  
乙路  
法彦  
齋叟  
怡々  
改祀  
杜入  
孤舟  
友耕

清はては雪を積りりりり雪の山  
ゆんい雪の来りりりりりりり  
赤法義の雪を積りりりりりりり  
積りりりりりりりりりりりりり  
雪きりりりりりりりりりりりり  
戸を四雪積りりりりりりりりり  
ゆきりりりりりりりりりりりり  
雪らりりりりりりりりりりりり  
雪りりりりりりりりりりりりり  
雪りりりりりりりりりりりりり  
雪りりりりりりりりりりりりり  
雪りりりりりりりりりりりりり  
雪りりりりりりりりりりりりり

不ゆ  
萱丸  
淵斜  
如去  
有由  
六橋  
巳岡  
只池  
双鳥  
淵翠  
味舎  
良和

おきふ人のほろやおの冬  
ちかやともふ早と新や雪の上  
そまらむとふはきりけり冬丸け  
冷の雪くもるるやうも晴りたり  
晴しそ松よつこりけり林の雪  
又通しとけりも雪も雪の系  
雪年や高坊とより服の雪り  
結かけし松やゆきいふお津  
火のりきりけり松より雪のあ  
ほきこむ松きりけり雪の雪  
雪の雪や雪の雪とさうん松まりり  
雪火けきしと松や雪年の雪

柳 曉  
庭 知  
何 是  
白 羽  
赤 竹  
古 路  
雪 屋  
乙 駮  
雪 像  
古 雪  
昇 帝

雪見

又とささおの心やうや雪の  
結のきお松とむくや雪の雪い  
松打そ松とさうや松の雪  
うとゆきとむくもあちや林の雪  
又とささおの心やうや雪の  
雪とんといふとささう月松  
西面あつとさうとらね山の雪  
晴とや松の雪とさう雪の雪  
松松のおとや雪とさう雪の雪

山 子  
雪 け  
三 木  
昔 年  
一 旦  
少 雪  
太 一  
葉 圃  
乃 山  
松 枝  
雪 吻



雪

雪

冬雪をきくは初雪の音に似たり

初雪

雪の音はきくは初雪の音に似たり

初雪

雪の音はきくは初雪の音に似たり

初雪

雪の音はきくは初雪の音に似たり

初雪

雪の音はきくは初雪の音に似たり

初雪

雪の音はきくは初雪の音に似たり

初雪

初  
雨

時  
雨

初雨の音はきくは初雨の音に似たり

初雨

初雨の音はきくは初雨の音に似たり

初雨

初雨の音はきくは初雨の音に似たり

初雨

初雨の音はきくは初雨の音に似たり

初雨

初雨の音はきくは初雨の音に似たり

初雨

初雨の音はきくは初雨の音に似たり

初雨

初雨の音はきくは初雨の音に似たり

初雨



晴あつらふらぬやさぢのふかし  
志くれば色の物ひくさまふれ  
是もよひ小きも鳴て村の時  
片忠々言やうけはしれうふ  
世実のうづりもささめけるに  
帆もくらふ舟新うつらてける  
月もまきもあま時白のまらぬ  
用もなきも数もなきおらぬ  
ふきのスリもむらふらまふ  
滝流くたふらあつたれうめ  
松まきはやまきまらぬ  
斧柄一人と志くまのうらふ

葉 枝  
元 文  
如 破  
相 瓦  
馬 古  
布 川  
松 枝  
紙 文  
布 丈  
楯 羽  
一の 箭

東

粟

志くまらふらぬのさだまのま  
一里わたりてなやまふらぬ  
小舟しらぬ沖の船も打のさる  
きふもあつたけりおの時  
あつたきくゆきやまの時  
志くまらふらぬのさだまのま  
相おとま月と時を時  
半の月とさつとまの  
解法かちや時白の時  
時あつらふらぬのさだまのま

乙 瓢  
相 候  
き 丈  
松 雄  
馬 介  
乙 倉  
万 像  
水 壺  
為 山  
多 けり

霰

かくらぬるき抄年や存霰  
 斧山  
 小日月あさひしめや中霰霰  
 佛華  
 春もししふ年さしめしる霰は  
 古山  
 都くあつらふやも霞ゆくはまは  
 月披  
 ねささく霰舞もつる霰は  
 市裁  
 細き霰や霰は白くも 結  
 百古  
 きは葉の結もささるあはれが  
 山方  
 心あつらふや中霰の都しきり  
 山子  
 春もししめ思ゆるはぬ霰は  
 多あ  
 桶の結も霰ささるしきり  
 子市  
 給標よ一口しきりあはれ  
 小電

霜

くれ霧の号ふりくる霧うぬ  
 霧知  
 春もししめ小霰あさひしきり  
 春水  
 消さしとささる霰はもる霰は  
 霰了  
 あささるやしきり地もるや霰は  
 為山  
 毎の霰や霰はさしはむあの上  
 毎流  
 力らふよふ霰あさひしきり小折打  
 秋高  
 月らまうとねのささるあの上  
 出雲  
 消さしりささる霰はり霰の霰  
 石巻  
 あささるのすさるしきり中霰は  
 亭年  
 消さしりささるたしきりあの上  
 西地  
 むしきりささるあささる中霰は  
 杜入

あくと相のまききくくおのま  
おけやおまのまのまのま  
おけくくくくおやもおれ  
おのまおけのまのまのま  
まのまおまのまのまのま  
まのまおまのまのまのま  
おまのまおまのまのまのま  
まのまおまのまのまのま  
まのまおまのまのまのま  
まのまおまのまのまのま  
まのまおまのまのまのま

杜  
有耕  
言く  
朱朱  
中世  
昇帝  
鳥外  
中世  
山子  
山子  
古山  
子

冬雨

あくと相のまききくくおのま  
おけやおまのまのまのま  
おけくくくくおやもおれ  
おのまおけのまのまのま  
まのまおまのまのまのま  
まのまおまのまのまのま  
おまのまおまのまのまのま  
まのまおまのまのまのま  
まのまおまのまのまのま  
まのまおまのまのまのま  
まのまおまのまのまのま

法前  
色測  
素竹  
梅畠  
米南  
木ま  
素山  
幽年  
あ山  
の簪  
枯唐

寒雨

氷粒

志の〜とあも〜ゆる〜の音  
まろきあふもわ〜あき〜の音  
きり〜り〜細いあき〜冬は雨  
け〜さん〜ゆ〜ふ〜さ〜の音  
あ〜き〜け〜るあ〜の〜ゆ〜き〜あ〜  
あ〜け〜るあ〜の〜ゆ〜き〜あ〜

木と  
和介  
あは  
氷粒  
山子  
あき  
あき  
あき

神倉月

降る〜を〜締〜ふ〜日〜も〜中〜秋〜は〜月  
甲〜出〜て〜あ〜さ〜さ〜し〜り〜や〜赤〜き〜月  
十〜日〜中〜日〜あ〜さ〜さ〜さ〜さ〜あ〜あ〜あ〜  
十〜日〜や〜あ〜ま〜ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜  
十〜日〜や〜あ〜ま〜ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜  
十〜日〜の〜あ〜ま〜ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜  
十〜日〜の〜あ〜ま〜ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜  
十〜日〜の〜あ〜ま〜ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜  
十〜日〜の〜あ〜ま〜ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜  
十〜日〜の〜あ〜ま〜ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜

玉屑  
和介  
あき  
あき  
あき  
あき  
あき  
あき  
あき  
あき



霜月

日くけふも峰や小まのわたる  
葉の葉お日影を投む小まに  
お社つね枝まのり小まに  
魚市の朝日まのり小まに  
果てぬてついでりの小まに  
雪下すこいとまのり小まに  
川ぬくまのりある小まに  
瑞波入流まのり小まに  
ゆきつりまのり日まのり小まに

山秀  
市水  
酒陵  
約外  
乙名  
氷巻  
山方  
山

走 師

霜月のまのりある雪葉か  
おまのりやまのりある雪葉か  
雪のおろけ所のおまのり  
鶯の叫ぶまのりある雪葉か  
枯枝の早のりある雪葉か  
根のまのりある雪葉か  
夕まのりある雪葉か  
茂士のまのりある雪葉か  
雪のまのりある雪葉か  
雪のまのりある雪葉か  
雪のまのりある雪葉か

小帳  
乙名  
第古  
名外  
杜亭  
雲亭  
亭亭  
橋山  
雪亭  
雪亭



初冬

春のそとややゆきのあけの言  
門きひて松さるるゆき哉  
樹も雪の勢やゆきの人出入  
世も雪の川勢をいふ言哉  
初冬や雪のあけの葉もさ  
ちのあけやあけのこもさるる言  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由

幸水  
幽年  
山子  
溪翁  
初冬  
不條  
風角  
雪を  
西池  
杜入

冬至

神送

神の送

初冬や雪のあけの言の由  
ちのあけやあけのこもさるる言  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由  
初冬や雪のあけの言の由

山子  
西池  
初冬  
西池  
初冬  
西池  
初冬  
西池  
初冬  
西池  
初冬  
西池  
初冬  
西池  
初冬  
西池

夷 備

わろく日お招きさたりや林の南  
おほきくみ林のさきさきうーりれ  
まぐーの社内ぬろろや林の南  
おほきくみ林のさきさきうーりれ  
わろく日お招きさたりや林の南  
おほきくみ林のさきさきうーりれ  
まぐーの社内ぬろろや林の南  
おほきくみ林のさきさきうーりれ

左南  
妻  
主  
法  
山  
山  
杜  
杜  
杜  
杜  
杜  
杜

子 焼心

神楽

わろく日お招きさたりや林の南  
おほきくみ林のさきさきうーりれ  
まぐーの社内ぬろろや林の南  
おほきくみ林のさきさきうーりれ  
わろく日お招きさたりや林の南  
おほきくみ林のさきさきうーりれ  
まぐーの社内ぬろろや林の南  
おほきくみ林のさきさきうーりれ

冬  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松

山取歌

実入よまの村よまの村よまの村  
池あふまの池あふまの池あふまの池  
池あふまの池あふまの池あふまの池  
池あふまの池あふまの池あふまの池  
池あふまの池あふまの池あふまの池  
池あふまの池あふまの池あふまの池  
池あふまの池あふまの池あふまの池  
池あふまの池あふまの池あふまの池  
池あふまの池あふまの池あふまの池  
池あふまの池あふまの池あふまの池

山取歌 一具 山方 志月 大勝 杜若 松岑 志岳

十夜

山の妻み相かたさうの十夜うめ  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池

山子 志岳 志岳 志岳 志岳 志岳 志岳 志岳 志岳 志岳

山命儀

山の妻み相かたさうの十夜うめ  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池  
志岳の池あふまの池あふまの池

山子 志岳 志岳 志岳 志岳 志岳 志岳 志岳 志岳 志岳

芭

蕉  
忌

古直之忌

さやの風もや時あふ月よふく  
さなれぬの早もよもいふ霜の白  
霜もやあつしつる木の鳥  
霜もやあつしつる木の鳥  
さやの風もや時あふ月よふく  
さなれぬの早もよもいふ霜の白  
霜もやあつしつる木の鳥  
霜もやあつしつる木の鳥

月夜  
六  
味  
如  
貞  
二  
み  
河  
不  
乍

辨

叩

空志辨

ゆきせて年もはつしつる  
あつしつる河もよもいふ霜の白  
あつしつる河もよもいふ霜の白  
あつしつる河もよもいふ霜の白  
あつしつる河もよもいふ霜の白  
あつしつる河もよもいふ霜の白  
あつしつる河もよもいふ霜の白  
あつしつる河もよもいふ霜の白

舟  
水  
好  
舟  
深  
元  
一  
舟  
舟  
乙

きんぎょやあつたつたのうらやま

市水 標吉

藤ハヤ 松内也 五十年

舟宗

藤ハヤ 松内也 松の内

寺本

藤ハヤ 松内也 松の内

一府

藤ハヤ 松内也 松の内

山方

藤ハヤ 松内也 松の内

信国

藤ハヤ 松内也 松の内

菊古

藤ハヤ 松内也 松の内

月夜

藤ハヤ 松内也 松の内

新彦

落

葉

市人のちりちりしたる葉を我

友耕

取つたものさきさき葉を我

卓所

取つたものさきさき葉を我

菊古

三日月ふらふらとさきさき葉を我

松雲

松内也のさきさき葉を我

例解

とさきさき葉を我

水園

押せぬとさきさき葉を我

寺彦

山麓のついでとさきさき葉を我

呂彦

さきさき葉を我

後岳

本松とさきさき葉を我

省耕

吹雪とさきさき葉を我

我彦

焚かぬとさきさき葉を我

古彦

木乃葉

松竹梅の三つは冬に花を咲かす木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を

の 菊  
山 菊  
池 菊  
乃 山  
高 山  
九 山  
赤 山  
桐 山  
琴 山  
乙 山  
ミ 山

冬木立

木枯

海老の木の葉は冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を  
食ふ事なくしては冬に枯れぬ木の実を

葉 冬  
西 山  
出 山  
冬 山  
巴 山  
百 山  
夏 山  
素 山  
松 山  
交 山  
水 山



散紅集

勢一物... ち... 中... 未... 乙... 一... 蒼... 老... 古... 波

素竹 中誓 未成 乙野 一止 蒼松 老古 古耕 波輝

花帰

一... 日... 勢... 音... 折... 吸... 恒... 解... や

越... 幻... 古... 石... 陵... 翠... 古... 月... 山... 杜... 有



枇杷の花

みみある新くみきりーうき花  
まほーのまほーのまほーのまほーの  
まほーのまほーのまほーのまほーの  
まほーのまほーのまほーのまほーの  
まほーのまほーのまほーのまほーの  
まほーのまほーのまほーのまほーの  
まほーのまほーのまほーのまほーの  
まほーのまほーのまほーのまほーの

文史  
物  
未  
まゆと  
よゆめ  
大乃  
西山  
一具  
春生

山花

山花のまほーのまほーのまほーの  
山花のまほーのまほーのまほーの  
山花のまほーのまほーのまほーの  
山花のまほーのまほーのまほーの  
山花のまほーのまほーのまほーの  
山花のまほーのまほーのまほーの  
山花のまほーのまほーのまほーの  
山花のまほーのまほーのまほーの

杜  
柳  
菊  
石  
木  
石  
白  
完  
山

山きよむのむり〜ちるや井水

山

きんよう〜あきさしとりのあきさし

鳥

あねのあきさし〜あきさし

舟

しきりあきさし〜あきさし

丁

招いたきさし〜あきさし

鳥

一少ぬきさし〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

冬の梅

八手

あきのあき〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

冬至梅

冬梅

あきのあき〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

あきのあき〜あきさし

鳥

鳥

牡丹

萬中ふけしむ新色を枯  
新あしむもかきしむを枯  
居り新もあしむを牡丹  
信うけしむを牡丹  
日あしむもまじしむを牡丹  
一きりあしむを牡丹  
あしむしむを牡丹  
あしむしむを牡丹  
あしむしむを牡丹  
あしむしむを牡丹  
あしむしむを牡丹

山方  
あし  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山

水

價

水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり  
水仙の地を産つてえきり

取  
角  
角  
角  
角  
角  
角  
角  
角  
角  
角  
角



花の 枝の 伸あつて 枝を 結むる

系 束

けりや 葉の 縁を 結むる

結 糸

葉の 縁を 結むる 山の 葉

結 糸

葉の 縁を 結むる 山の 葉

結 糸

葉の 縁を 結むる 山の 葉

結 糸

葉の 縁を 結むる 山の 葉

結 糸

葉の 縁を 結むる 山の 葉

結 糸

葉の 縁を 結むる 山の 葉

結 糸

葉の 縁を 結むる 山の 葉

結 糸

葉の 縁を 結むる 山の 葉

結 糸

茶 乃 花

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山

茶 乃 花

茶の 葉を 結むる 山の 葉

古 山



枯 籜

枯の籜やあふあふいふ 籜の壳

籜の壳 籜の壳

冬 枯

冬うれの籜をさへんさへんを  
冬枯やと籜の壳も只一殻

水壺 冬枯

うけもさの只なりさへんさへんを

冬枯

枯るや 籜をさへんさへんを

二葉

うけもさやあふあふいふさへんを

枯る

枯るや 籜をさへんさへんを

籜の壳

わさやさの籜をさへんさへんを

籜の壳

籜の壳 籜の壳 籜の壳 籜の壳

籜の壳

草

枯

あつくりとさへんさへんを

草

あつくりとさへんさへんを

草

あつくりとさへんさへんを

草

あつくりとさへんさへんを

草

あつくりとさへんさへんを

草

あつくりとさへんさへんを

草

あつくりとさへんさへんを

草

あつくりとさへんさへんを

草

あつくりとさへんさへんを

草

あつくりとさへんさへんを

草

あつくりとさへんさへんを

草

新

枯

山楢の葉のこぼれまきもしくれや  
か一本の葉もふも多き楢や  
ついでまきと大もまきもふ楢  
まきくくく人まきりふまき  
楢つまや楢音うつる産乃産  
楢枯くくまきや楢を楢の家  
月まきうぬ楢うくまき  
和まき新ちりく楢  
夕のり楢や楢の楢  
二日楢とちりく楢  
楢もふくまきくく楢  
まきまきのまきくく楢

楢と  
杜  
楢  
音  
楢  
音  
只  
楢  
音  
山  
音

大根

大根の音まきくく楢  
かまき川まきくく楢  
二のまき楢も楢くく楢  
まきくく楢も楢くく楢  
大根引て楢くく楢  
楢まきくく楢くく楢  
楢のまきくく楢くく楢  
まきくく楢くく楢  
まきくく楢くく楢  
まきくく楢くく楢  
まきくく楢くく楢

山  
音  
音  
音  
音  
音  
音  
音  
音  
音  
音  
音



干菜

切干

始入たる其日きり引大根は  
糸板おきりもさき大根引

さき干物ふきききり干菜は

ふきり干物ふきききり干菜は

地味乾のききり干菜

おきり干物ふきききり干菜

山甲いれ干物ふきききり干菜

おきり干物ふきききり干菜の上

切干干物ふきききり干菜

切干のちり干物ふきききり干菜

糸板  
山

干菜

干菜

干菜

干菜

干菜

干菜

干菜

干菜

葱

麦

切干干物ふきききり干菜  
きり干物ふきききり干菜  
切干干物ふきききり干菜  
おきり干物ふきききり干菜  
山甲いれ干物ふきききり干菜  
おきり干物ふきききり干菜の上  
切干干物ふきききり干菜  
切干のちり干物ふきききり干菜

麦の干物ふきききり干菜  
糸板おきり干物ふきききり干菜  
山甲いれ干物ふきききり干菜  
おきり干物ふきききり干菜  
山甲いれ干物ふきききり干菜  
おきり干物ふきききり干菜の上  
切干干物ふきききり干菜  
切干のちり干物ふきききり干菜

糸板  
干菜

干菜

干菜

干菜

干菜

干菜

鶴

昔もくく 枝のく 海や一古の  
昔海や 昔はく 昔もくく 止  
昔もくく 昔もくく 昔もくく 昔もくく  
昔もくく 昔もくく 昔もくく 昔もくく  
昔もくく 昔もくく 昔もくく 昔もくく  
昔もくく 昔もくく 昔もくく 昔もくく  
昔もくく 昔もくく 昔もくく 昔もくく  
昔もくく 昔もくく 昔もくく 昔もくく

宗三  
雪首  
鳥羽  
松竹  
山  
双鳥  
木成  
乙言  
吟風  
喜池  
松之

雁

夕暮のく 枝のく 海や一古の  
夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく  
夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく  
夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく  
夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく  
夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく  
夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく  
夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく 夕暮のく

市火  
の亭  
の情  
完和  
松炭  
業陰  
山方  
相堂  
冬中  
一止  
象末

千鳥

千鳥の羽を裁きし通口の斜  
木架や庭入る月也掃きたる  
さし修のまゝや日のさけ苗木相  
考やしんれさきしめさし修す  
千鳥のつらきそらさきき  
る風や花をまきし修す  
ほ純なる花をまきし川あり  
考きさききし修す  
花さききし修す  
田すもまきし修す  
面あり修す

山 架 木 有 一 具 修 家 斜 下 庭 有 耕 田 相

千鳥の羽を裁きし通口の斜  
木架や庭入る月也掃きたる  
さし修のまゝや日のさけ苗木相  
考やしんれさきしめさし修す  
千鳥のつらきそらさきき  
る風や花をまきし修す  
ほ純なる花をまきし川あり  
考きさききし修す  
花さききし修す  
田すもまきし修す  
面あり修す

世 衆 甲 舟 標 筆 圃 源 西 山 岸



小鴨

春のゆくゆくは春もなして 鴨のさき  
 早咲てあゝ後うーかものあ  
 ーつらや月を押あふ池の鴨  
 川をぬく地をこけや鴨のさき  
 わけは鴨のさきこけや鴨のさき  
 春のほもあゝのさきかたはあ  
 春の鴨も無からしむる鴨のさき  
 鴨のさきと月をさきや鴨のさき  
 鴨のさきと月をさきや鴨のさき  
 鴨のさきと月をさきや鴨のさき  
 鴨のさきと月をさきや鴨のさき

宗三  
 斗一  
 甲者  
 竹屋  
 文琴  
 古唐  
 風上  
 大乃  
 為山  
 吉田  
 意風

鴨

鴨

春のゆくゆくは春もなして 鴨のさき  
 早咲てあゝ後うーかものあ  
 ーつらや月を押あふ池の鴨  
 川をぬく地をこけや鴨のさき  
 わけは鴨のさきこけや鴨のさき  
 春のほもあゝのさきかたはあ  
 春の鴨も無からしむる鴨のさき  
 鴨のさきと月をさきや鴨のさき  
 鴨のさきと月をさきや鴨のさき  
 鴨のさきと月をさきや鴨のさき  
 鴨のさきと月をさきや鴨のさき

春古  
 の簫  
 波静  
 ちきり  
 山方  
 ちきり  
 ちきり  
 ちきり  
 ちきり  
 ちきり  
 ちきり

ほ

麻

を

人の心そそぎもあはれは麻を  
御為と人々終るるも麻を  
月影のやそそくやほ麻を  
海をふか減のあつらさきも  
月影のやそそくやほ麻を  
おいはるもあつらさきも  
山をえのほやそそくは麻を  
おいはるもあつらさきも  
おいはるもあつらさきも

厚尾 鹿 東海 龜 友南 西子

木 兔

冬

の

帳

帳のふもとやあつらさきも  
田舎のいひもあつらさきも  
海斗のうもとやあつらさきも  
それをもあつらさきも  
ゆきのうもとやあつらさきも  
雪のうもとやあつらさきも  
雪のうもとやあつらさきも  
雪のうもとやあつらさきも  
雪のうもとやあつらさきも

波部 其のめ 為山 山 千号 峰 出年 表年 運法

雪

雪

雪

夜真実

追手物

蘇実

夜更けのこぼれ雪も  
官むすむの海山や空を  
あかきりしひたさき  
系人もあきしむひや

糸古  
雲然  
香枝  
あ山

秋のまはるけくさくさ

由哲

山よりくさくさくさ

山方

山よりくさくさくさ

大乃

秋日の追手物

秋吉

蘇実あきききき

松堂

網

代中

氷魚

〜〜〜おつふい別も 蘇実

あ山

うた〜いけをひらき

軍指

年〜きけのつらき

翠々

おとあきききき

九起

朝のつらき

冬徳

後のこまき

杜水

指もあききき

旭子

言代ふきき

乃山

のりおのまき

大真

新魚あきき

茶三

霖

さしけやいしをとお魚のしりき  
柴清中をりかききりのひ  
霖乃らりふぬきほりくれ  
霖おきほつる日よるくれ

し 耕  
ふ 号  
系 末  
ノ ぎ

生海龍

命さくのひちきあるは海龍  
るふさくははきふたまたふ  
握むきの筋のちりき解くれ  
握むきおむら屋は極の記

の 藩  
杜 水  
山 子

鱈

河豚

あけのさきさきさき  
筋持しり人魚のさきさき  
筋けやおびきお細きさ

抱 江  
完 和  
山 方

鮫

杉野の鮫鱈いふさや海り  
鮫鱈や枯葉さるる 亭一

相 寺  
亭 吟

乾

鮭

うら鮭のちきさきさき  
乾鮭のちきさきさき  
うら鮭やちきさきさき  
うら鮭のちきさきさき

山 方  
一 飛  
岸 高  
鳥 外  
亭 吟



葉

吟

うゝ鶴や言外松のゆたかり  
かゝ鶴をねゆれきや澄き  
花能もちし月細りや風の香  
うゝ鶴やまよつたは玉二年秋  
かゝ鶴や鶴さつてを思ふ

丹化  
山子  
の番  
波節  
あ山

きはしきき亭の引たり葉松  
むつまきき群臣抜抄や葉松  
川出ゆききる鶴やあそり松  
鶴ゝゝれいさうや葉松  
と危丁とむらりる鶴や葉松  
二松三松とむらりる鶴や葉松

山子  
相古  
秋香  
古山  
この節  
あ山

此  
か

掃 ころるもきく  
そり合ふもりやさきも  
おの葉おさる葉松  
いふてまきる鶴や葉松  
葉のすき 葉松  
あきまきる鶴や葉松  
しりてまきる鶴や葉松  
うゝ鶴やまよつたは玉二年秋  
くの花ねもちし月細りや風の香  
まよつたは玉二年秋  
かゝ鶴をねゆれきや澄き  
花能もちし月細りや風の香

相古  
山子  
の番  
波節  
あ山  
三葉



念

いしゆのねむるふまゝの念うぬ  
うら若あつとせし一平抄の由  
きつしりやきせんとしりし一抄

念古  
山子  
山方

蒲

周

かゝるあふおへるあひのしり  
押身介子の若おとく蒲志が  
きつありし抄に伝あるやん  
かゝんきつはおのせし池の  
了きかかやんきつはるはる  
和志やきあつとせしやん  
小やんやきせぬあらし

念古  
美山  
味舎  
味成  
清河  
厚了  
龜相

紙

衣

和合りき年候き若く抄の  
わあつしりき若く抄の  
あつとせし抄に伝ある  
ひふあつとせし抄に伝ある  
きつ梅のきつとせし抄に  
始りしとせし抄に伝ある  
和合りき年候き若く抄の  
あつとせし抄に伝ある

木哉  
和屋  
秋香  
和香  
西地  
了未  
山子  
あ山

頭中

和合りき年候き若く抄の  
わあつしりき若く抄の  
あつとせし抄に伝ある  
ひふあつとせし抄に伝ある  
きつ梅のきつとせし抄に  
始りしとせし抄に伝ある  
和合りき年候き若く抄の  
あつとせし抄に伝ある

山子  
伴孫  
和香

長安

市の地ふ路中 寄るてありき  
よふゆきとて路中よきとてありき  
あふけのあふけつし 角路中  
ありきつ 社家所 せき路中  
そねふきく 移る世のあふ路中  
たふも言 けり せき路中  
たふきく 形ふ路 せき路中  
路ふき田人 せき路 せき路  
あふき せき路 せき路

昇年 榮富 吉権 本屋 於江 朴我 為山 ちうく せき路 波田

煙

煙 巨

石町の煙を 煙を 煙を  
新夕あふき せき路 せき路  
ちうく せき路 せき路  
あふき せき路 せき路  
あふきのあふき せき路 せき路  
あふきのあふき せき路 せき路  
あふきのあふき せき路 せき路  
あふきのあふき せき路 せき路  
あふきのあふき せき路 せき路  
あふきのあふき せき路 せき路  
あふきのあふき せき路 せき路

煙羽 山 乙官 多けあ 市山 ち情 英泉 栄我 樗屋 文海 ちさあ

埋火

火桶

せきつらわき 掃の 仲まる 出らふ

山子

埋火 やさき 火 掃り ぬき ちぎる

多よめ

うつら やさき 火 掃り ぬき ちぎる

後岳

埋火 やさき 火 掃り ぬき ちぎる

中盤

火桶 と まんてん 掃り ぬき ちぎる

の丈

後の せき ちぎる 火桶 と まんてん

山方

掃り ぬき ちぎる 火桶 と まんてん

掃り

掃り ぬき ちぎる 火桶 と まんてん

相火

掃り ぬき ちぎる 火桶 と まんてん

掃り

掃り ぬき ちぎる 火桶 と まんてん

掃り

掃り ぬき ちぎる 火桶 と まんてん

掃り

掃り ぬき ちぎる 火桶 と まんてん

掃り

湯

石

湯 石

湯

口...  
わ...  
子...  
又...

源久  
殊舎  
松白  
季来

冬構

冬構...  
若...  
多...  
物...  
似...  
昨...

一具  
佳筆  
松花  
香山  
五鈴

炉間

炉...  
昨...  
昨...

弄竹  
山外  
燕松

口切

口...  
口...  
口...

立字  
三カ  
杜雪

云

楮

云...  
上...  
四...  
ハ...

社白  
富士  
山子  
山名

山を松や梅のうらやまのうらやま  
ゆとふく形らのささしかのうらやま  
北 箭

類

初るやや所しあさくそれ終  
款るやや好のうらやまのうらやま  
山 方

發

整もやや松のうらやまのうらやま  
致重ふ所しあさくそれ終  
冬 方

積

積るやや出てうらやまのうらやま  
昭るやや積るやや出てうらやま  
冬 方

積

積るやや出てうらやまのうらやま  
昭るやや積るやや出てうらやま  
山 方

凍

凍るやや出てうらやまのうらやま  
昭るやや積るやや出てうらやま  
山 方

初

初るやや出てうらやまのうらやま  
昭るやや積るやや出てうらやま  
山 方

氷

氷るやや出てうらやまのうらやま  
昭るやや積るやや出てうらやま  
山 方





湯

地ノ新やあしりや早稲の  
けつ水の倉もとりのまじ  
かきりしや新まき月夜

杉  
秋  
双鳥

納豆

棒人のまきやまきせり納豆  
新くはとれまきり粒納豆  
好種ひあつ納豆お池まき  
豆餅まきまき納豆汁

一  
杉  
松  
山

わくやまきお池まき  
まきりの池まき納豆  
まきりの池まき納豆

市  
氣  
柳

措

措まきりわりのまき納豆  
新のまきまきり措  
焚きまき納豆  
地まきまき納豆  
まきまき納豆  
山のまきまき納豆  
新のまきまき納豆  
山のまきまき納豆  
山のまきまき納豆  
山のまきまき納豆  
山のまきまき納豆  
山のまきまき納豆

山  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山

### 山灰竈

京の炭はくろく年格の森のりり  
 新たしとスそ ぬとむや格のり  
 炭竈のくろくを裁寸 味  
 まくろくや岩相つくひよ 木の炭  
 すすろくやまきこのろく 芥の先  
 炭のまや老ていおのまろく  
 継炭やまきい〜人まき  
 むろく〜つ〜生ひや 炭  
 いろり炭まき〜ぬるの力〜  
 うき〜に炭まき〜ぬるぬ

善  
 乃山  
 一具  
 山子  
 山  
 多ま  
 年  
 百文  
 多けぬ

### 炭

炭のまや老ていおのまろく  
 継炭やまきい〜人まき  
 むろく〜つ〜生ひや 炭  
 いろり炭まき〜ぬるの力〜  
 うき〜に炭まき〜ぬるぬ  
 炭のまや老ていおのまろく  
 継炭やまきい〜人まき  
 むろく〜つ〜生ひや 炭  
 いろり炭まき〜ぬるの力〜  
 うき〜に炭まき〜ぬるぬ

善  
 乃山  
 一具  
 山子  
 山  
 多ま  
 年  
 百文  
 多けぬ

冬乃月

若いけき子けうぬ 冬の白ひが  
嵐かえりききくく 帰るくく ぬれ  
泉あいの 松のうきや冬の月  
深れぬく 千きくおくく 冬は月  
書り可い 松尾のきり 冬の月  
きくんきき 松のきりや冬の月  
松出書おり 松くくく 冬の月  
ゆきひり 初のはね松や冬の月  
きききくく 千葉のうけや冬の月  
りくくく 千のひきききき 冬の月  
ゆききき 此の小くくく 冬の月

桂堂  
山  
相古  
好静  
折松  
折松  
波部  
ふ番  
山子  
山子  
浪空

寒月

あきふくくく 松ききき 冬の月  
五川の玉も 松くくく 冬の月  
ゆきくく 松ききき 冬の月  
き村くくく 松くくく 冬の月  
おいんき 松くくく 冬の月  
ゆきく 松のきり 冬の月  
ききき 松のきり 冬の月  
松くく 松のきり 冬の月  
き月く 松のきり 冬の月  
き月く 松のきり 冬の月  
き月く 松のきり 冬の月

松き  
松久  
松止  
松止  
松止  
松止  
松止  
松止  
松止  
松止  
松止

寒の  
入

室の内

寒  
田

うらひのしづかしのさかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの

双鳥  
山方  
去年  
有由  
三り  
鳥  
杉  
山  
杉  
杉  
杉

寒  
山

聯

賦

うらひのしづかしのさかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの

流久  
波部  
鳥外  
杉中  
杉中  
杉中

おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの

石  
夢  
夢  
夢

おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの  
おのろくさきしづかやうの

倒  
法  
法  
法

冬日

その日中影の月ももどきり  
田舎の心持のうらみ冬の日  
冬の日はもどきり影の縁

冬  
多  
一  
止

冬夜

冬の夜のもやまもどきり梅の花  
冬の夜もどきり梅の花のり

山  
子  
流  
久

冬田

あつてはやくかひはゆるき田の  
田の光穂のあつてき田の

番  
五  
道  
法

冬山

うねひら入りや梅の冬の山  
冬山はくおのちり冬の山

凌  
水  
寒  
水

事始

ゆきうすのおもひさし事始  
梅の花もどきり事始

出  
庭  
未  
甫  
事  
始

節季

非

そのまゝのやうに事始  
そのまゝのやうに梅の花もどきり  
そのまゝのやうに梅の花もどきり  
そのまゝのやうに梅の花もどきり  
そのまゝのやうに梅の花もどきり  
そのまゝのやうに梅の花もどきり  
そのまゝのやうに梅の花もどきり  
そのまゝのやうに梅の花もどきり  
そのまゝのやうに梅の花もどきり  
そのまゝのやうに梅の花もどきり

山  
斗  
一  
越  
外  
寒  
水

煤

拵

かへ福ふ高ひよしを煤拵  
 煤をふ日中ねちねちの煤  
 さふのさきり合ふし煤をふ  
 拵やまきさきりぬ炭の煤  
 まし拵やまきさのさきゆれ  
 煤をふのりかつむし拵の  
 拵もまきさきり拵の  
 いひ合ふ拵もあつむし拵  
 まし拵も拵をふまき拵  
 まし拵も拵をふまき拵  
 まし拵も拵をふまき拵  
 拵をふめきりまき拵

石山  
 末成  
 糸休  
 元史  
 乙類  
 半の  
 母合  
 五活  
 仁平  
 高完  
 本主  
 屋月

葉竹素

まき拵をふまき拵の  
 煤をふ日中ねちねちの煤  
 まし拵の名煤をふまき拵  
 日おまき拵のさき拵の  
 煤拵やまき拵の古歌  
 出わしりるまき拵の  
 出さしりるまき拵の  
 出さしりるまき拵の  
 出さしりるまき拵の  
 出さしりるまき拵の  
 出さしりるまき拵の

古耕  
 小雲  
 字門  
 山  
 乃山  
 山  
 山  
 山  
 山  
 梅室

解つ

解橋やおのりさうて一休  
橋かゝの降さし世一同う  
つらがる降や一箇言さおし  
から橋やおのりさうて

昇市 孤島 下條 山子

解  
毛

毛解とあはれん解  
毛解とあはれん解  
毛解とあはれん解  
毛解とあはれん解

孤島 四

衣配

衣配とあはれん解  
衣配とあはれん解  
衣配とあはれん解  
衣配とあはれん解

衣配 衣配

言打とあはれん解  
言打とあはれん解  
言打とあはれん解  
言打とあはれん解

言打

解  
分

解分とあはれん解  
解分とあはれん解  
解分とあはれん解  
解分とあはれん解

解分 解分

尾林

尾林とあはれん解  
尾林とあはれん解  
尾林とあはれん解  
尾林とあはれん解

尾林 尾林

年の  
市

年の市とあはれん解  
年の市とあはれん解  
年の市とあはれん解  
年の市とあはれん解

年の市 年の市

年本

志ろくねておきまうやと一の市  
志ろくあ人さうりさうり年お市  
物空くしきしちらまううと一の市  
と一の市おぬまをさるる縁りたり  
の空ろくさくおてさるる年お市  
押さけく清くしりやと一の市  
志ろくさうりさうり人や年の市  
夕山やうまのいさまの年お市  
志ろくさくさくおさうりさうりお市  
うりさふおのけさるる年お市  
あうおの新縁りさ年本お市

尺地 庄依 山秀 斗一 松山 相安 珍云 西馬 庄依 年化 宗本

年忘

三日月の入まを後一山お市  
再りお後さうりさうりお市  
や一お後さうりさうりお市  
と一の市おさうりさうりお市  
志ろくさうりさうりお市  
志ろくさうりさうりお市  
志ろくさうりさうりお市  
志ろくさうりさうりお市  
志ろくさうりさうりお市  
志ろくさうりさうりお市

成務 里山 山香 淳子 依 依 依 依 依 依 依 依



行

年

望月夜をまはるはゆい一年を  
 川年や人の世はまをそそぎ  
 川年やむらさきとついでに  
 川年やいよよかたりのうた  
 川年やうらなひのうた  
 川年やあまのこころのなほ  
 川年やうらなひのうた  
 川年やうらなひのうた  
 川年やうらなひのうた  
 川年やうらなひのうた

山  
 年  
 山  
 友  
 古  
 松  
 友  
 山  
 友  
 古  
 松  
 友  
 山

周見

春待

春待のうた  
 春待のうた  
 春待のうた  
 春待のうた  
 春待のうた  
 春待のうた  
 春待のうた  
 春待のうた  
 春待のうた  
 春待のうた

山  
 年  
 山  
 友  
 古  
 松  
 友  
 山  
 友  
 古  
 松  
 友  
 山

春

書くは春の日の光に  
下くの下に春の光に  
ゆもさきゆくも春の光に  
まらうる河やつらと青灯り  
まをうる河やつらと青灯り

春の光  
冬  
山

曆

二三日の光に  
光に

春  
光

古

標くは古の光に  
光に

古  
光

掛

掛くは古の光に  
光に

古  
光

大

海

大なる海  
大なる海  
大なる海  
大なる海  
大なる海

大  
海

大

大なる  
大なる

大  
大

除

夜

除夜の折と朝のまゆやそまつり  
えぬとゆいそつるそ 除夜の境  
つひの境をたて、はつり 除夜の境  
は早くと暮の白ひや 除夜の境  
まはくいて 除夜の境  
先除夜の境をひきく 小海  
風呂うてて 除夜の境  
掃いて 除夜の境  
やむとふんかた 除夜の境  
そと 除夜の境

折高  
竹  
二  
素山  
佳凡  
素英  
ま友  
素小  
素  
杜

まの  
暑

葉のほきり 夏のまの  
内井戸の約瓶新し  
きり 暑  
そのめい 暑  
於わく 暑  
す 暑  
あ 暑

月  
ま  
る  
呂  
素  
西  
山

年内  
と春

福々の年 かのや  
と 年内のまゆ 月  
節 日 年  
ま 年

和  
名  
如  
素



氷相子を八束てあり〜の〜ち  
月代やあ〜ら八束てありはま  
時をふておの〜ら〜く松うな  
忘つまりてきりきりの吹き乳  
亮なるおふさ〜外〜子〜まり  
木知や雪れ海秋も回〜枝  
〜けはは〜のつ〜り系味美  
智神や〜枝の雪にきり〜松  
松の志〜れや〜り〜ん〜ぬ  
海〜り〜の地ま〜りや被〜ん  
〜の序や眺よ系〜らふ海〜風

う 松  
一 松  
松 松  
早 山  
海 山  
抱 山  
松 山  
山 山

江戸本石町十軒店萬笈堂英大助藏版俳書目録

○類題之部

俳諧發句五百題 春秋齋白雄房撰 小本一冊

同 新五百題 田喜庵護国撰 小本二冊

同 新々五百題 全撰 全二冊

同 名所千題集 全撰 全二冊

同 今人東風流 洞海舎撰 全二冊

同 十方向集 全撰 全四冊

同 故人五百題 松露庵撰 小本一冊

同 續故人五百題 一具庵撰 全二冊

俳諧發句

同

類聚

八条園家松撰

中本二册

同

今人五百題

八雲東溟撰  
涉壁千松校

小本二册

此書は古今東西の名人の題名を収めたもので、巻頭に「今人五百題」とあるが、実際には五百題を越えている。また、題名だけでなく、その人の簡単な伝記も載っている。これは、題名集としてだけでなく、人物考としても読むことができる。八雲東溟の撰、涉壁千松の校。

同

類題

中本二册

同

古今撰

蕪庵書守撰

全一册

同

新類題

六合堂五里撰

全一册

同

萬題集

題砂子

八雲東溟撰

全四册

世に古集ありて、古今東西の名人の題名を収めたものあり。然るに、此書は、題名だけでなく、その人の簡単な伝記も載っている。これは、題名集としてだけでなく、人物考としても読むことができる。八雲東溟の撰、題砂子の校。全四冊。

同

狹義集

仁比多居雅撰

小本四册

俳諧田毎の日

沈隣夫人撰

全一册

同 言苗集

綿舎素柳編  
菅細素行校

横本二册

今人發句集

木木園校撰

全一册

四季發句帳

柳九大人撰

全一册

白比七五三

○假名遣物

万葉用字格

春登上人撰

全一册

對照假字格

長野美波西大人撰

全一册

音便假字格

春登上人撰

全一册

○句集之部

俳諧田毎の日

嵐雪句集

一松玄峰集

全三冊

其角句集

故舊文集

小本二冊

蓼太句集

全六冊

吏登句集

全一冊

巢兆句集

全一冊

完來發句集

全三冊

梅翁宗因發句集

全二冊

太無發句集

全一冊

存義發句集

全一冊

獅子賦發句集

全一冊

柳居發句集

糶林瓶

甲斐州丸集

全一冊

葛里句集

卷句集

全一冊

護物七部集

小本二冊

乙二七部集

全二冊

饒舌錄

元木綱大入選

全二冊

三吟未來記

全一冊

俳諧癖志

春秋庵白痴

全三冊

今七部集

冬至庵庚年撰

全三冊

今人附合集

永木園校註

全四冊

芳草集

同

全三册

芦のふゆ

田喜庵

全一册

○季寄之部

戀の聚

藤雪庵北元

小本二册

俳諧手挑灯

名俳諧

中本一册

同 掌中小本

全一册

俳諧袖鏡

寸詰一册

季寄便覽

枚撮

俳諧通言

横本一册

小本一册

○文之部

新編俳諧文集

名俳諧の文集

全一册

俳諧變躰一覽

両面

一枚撮

袖之規

表俳諧定坐変体之図

七次集の俳諧の定坐変体之図

俳諧礎

○掌中寸珍物

俳諧の寸珍物

掌中五百題初編

集初

編

同 二編

集野

編



仙書卷目

三編

同

芭蕉發句集

集卅三

編

同

其角發句集初編

集卅四

編

同

二編

集卅五

編

同

三編

集卅六

編

同

嵐雪發句集初編

集卅七

編

同

二編

集卅八

編

同

乙由發句集

集卅九

編

同

夢太發句集初編

集卅十

編

同

三編

集卅十一

編

同

新五百題初編

集卅十二

編

同

一編

集卅十三

編

同

二編

集卅十四

編

同

古今撰

集卅十五

編

猶追々出刺

俳諧一葉集

前編五

冊

同 薄用摺

後編四

冊

續今人五百題 涉壁為山韻

全二冊

掌中故人五百題 松露菴主人著

全本全一冊

仙書卷目

五

芭蕉翁略傳常水府 幻窓湖中編輯 附錄附 全一冊  
西荳野集校合  
 近世俳諧十家類題集過日庵祖鄉輯 全二冊  
 名家類題集 同 著 全二冊  
 續枯尾花集義庵雄嶺著 全二冊  
 類題發義集雜之部 同輯 全二冊  
 諸國名家集笠栖素行輯 安房之部 諸國追々出版 全二冊  
 古今五百題寸珍本 全四冊  
 俳諧獨警古 全二冊  
 俳諧道の便 全二冊  
 俳諧戀の祭 全二冊

發行

大坂 秋田屋 太右衛門  
 同 河内屋 喜兵衛  
 同 河内屋 茂兵衛  
 同 河内屋 藤兵衛  
 江戸 岡田屋 嘉七  
 同 小林 新兵衛  
 同 須原屋 茂兵衛  
 同 須原屋 伊八  
 同 英 大 助板  
 同 英 文 藏

書林

製本所

本石町十軒店角

